

基本目標Ⅲ ワーク・ライフ・バランスの推進

重点課題1 ワーク・ライフ・バランスの啓発

【目標に対しての評価】 A・・・実施しており、成果をあげている B・・・実施しており、一定の成果をあげているが、課題も多い C・・・実施できなかった

施策の方向	具体的施策	施策対象者	担当課	平成25年度目標	評価	平成25年度実施内容(数値、改善点、方向性)	平成26年度目標	H26機構改革による担当課
1、家庭生活における男女共同参画の促進	①男性の家庭への参画を促す啓発活動	男性市民	社会教育課	家庭教育情報誌げんきっこfamilyの編集等に携わる家庭教育支援チームヘスティアメンバーに啓発すると共に男性の家庭参画に関する記事のあり方について考える。	B	・家庭教育情報誌げんきっこfamily(年4回発行中2回)でイクメンパパを紹介。 ・家庭教育支援チームヘスティアにおける4・5ヶ月検診での講座部絵本の読み聞かせの活動の際などにおいて、付き添いパパへの育児に関わる啓発を進めた。	家庭教育情報誌げんきっこfamilyの編集等に携わる家庭教育支援チームヘスティアメンバーへの意識付けと共に男性の家庭参画に関する記事のあり方について考える。	
			人権・男女共同推進室	市イベントなどで街頭啓発を行う。		文化センターでの『親子の料理教室』『男の料理教室』の実施、イクメンカジメン啓発として、男性対象にシリコンバランを配布し、家庭で「男女共同参画」の話題になることを目的に行った。	市イベントなどでの街頭啓発をする。	
			中央公民館	検討する。		取組みなし	検討する。	
			紀見地区公民館	『男の介護教室』を実施する。		男性が家庭への参画を促すきっかけとするために、『ケアメン:男の介護勉強会(全4回、49名)』『男の料理教室(6名)』を実施した。	共に生きる意味、いたわり合う意識を高めることに気づき合える交流会を開催する。	
			紀見北地区公民館	『男の料理教室』を実施する。		男性の家庭参画と社会参加を促すため、オヤジのついで「料理教室 男の鍋」(6人)を実施、また和歌山大学名誉教授の堀内秀雄先生を講師にお招きして「オトコの井戸端会議」(20人)開催。～地域をもう一つの居場所に～をテーマにあらゆる職種を体験した60代から70代の男性を中心に積極的な意見交換が行われ、これからの自分を見つめ直す良い機会が提供できた。	井戸端会議、陶芸教室、料理教室など開催する。	
			恋野地区公民館	地域の特色を生かし、幅広く広報し事業の発展に向けて継続実施していく。		キャンプファイヤーは若いお父さんも率先しての参加がある。(97名)、サークルにおやじの料理教室(24名)があり、今年はフリースクールで小学生に、キャンプファイヤーやそうめん流し等で協力してくれた。	現在の事業は継続実施で、団塊世代の人の居場所づくりを考えた事業を取り入れる。	
			学文路地区公民館	防災などの取り組みと連携したり、乳幼児サークルや保育園と連携した男性参加事業を企画する。		男性参加を促しながら、料理教室、ガーデニングなどを実施した。	健康講座(料理教室)やイクジイ事業を実施する。	
			隅田地区公民館	家族が参加できるよう内容を検討し、継続して実施する。		男性の参加を目的とした『みんなで一緒にミニミニ運動会』(男性5名・女性15名・子ども15名・0歳～50歳台)。また『いのちを育む授業・中学1年生との交流会・3回実施』(男性3名・女性80名・中学生85名・子ども44名・0歳～60歳台)においてはパパが育児体験談を発表した。	より多くの家族が参加できるよう、実施日も含めて再検討し、継続して実施。	
			橋本地区公民館	男性向けの事業を企画する。		サークル活動として『お父さんの料理教室』実施した。	料理教室に拘らず、乳幼児学級への父親やおじいちゃんの参加を勧める。	
			西部地区公民館	幅広く広報し、「グルメ倶楽部」を継続する。		健康を意識した料理メニューによる「グルメ倶楽部」を開催した。	継続実施する。	
			高野口地区公民館	子育てサークルと連携し男性の参加を呼びかける。		『男の料理教室』(サークル活動)を実施した。	サークル活動の一環として家事に積極的に参画することを目的に『男の料理教室』を開催する。	
			いきいき長寿課(地域包括支援センター)	・紀見公民館との共催により誰だってケアメン肩肘はらない男の介護教室を開催する。(6/27、7/31、8/30) ・今後は、男性介護者交流会等を継続的に実施する。		紀見地区公民館との共催により男の介護教室を3回開催できた。グループによる意見交換を行い、地域における課題、例えば、自治会役員になりにくいから自治会に加入しない方が激増しているなどがだされた。地域活動に参加されている高齢者でも、孤独感を感じている方が多く(特に男性が)、介護予防事業等より充実することがその役割を果たしていることなども確認できた。	地域包括支援センター主催による介護技術習得研修会を開催する。(平成26年9月～、5回程度)	
②職場と家庭の性別役割分担の変革のための啓発	企業等 雇用主	商工観光課	・経済団体等との一層の連携を図る。 ・広く実施されるために機会があれば国への要望をする。	C	・総合的なパンフレットの配布をした。 ・セミナーの開催等の呼びかけを行った。	・経済団体等との一層の連携を図る。 ・広く実施されるために機会があれば国への要望をする。		
		商工観光課	・経済団体等との一層の連携を図る。 ・育児・介護休業法の全面施行について市ホームページに掲載する。 ・近く休業補償が見直しされる方向にある状況を周知していく。		・総合的なパンフレットの配布をした。 ・セミナーの開催等の呼びかけを行った。 ・育児・介護休業法の全面施行について市ホームページに掲載した。	・経済団体等との一層の連携を図る。		
		職員課	取得率が低い男性職員向けに、イントラネット等を利用することにより、制度の情報発信を行う。		対象となった職員に対して、職員課担当から制度の説明を個別に実施した。	取得率が低い男性職員向けに、イントラネット等を利用することにより、制度の情報発信を行う。		
と法2、啓発の育児推進者・進へ介護周知業	①育児・介護休業法の事業者への周知	企業等 雇用主 労働者	商工観光課	・経済団体等との一層の連携を図る。 ・育児・介護休業法の改正内容および全面施行について市ホームページに掲載する。	C	・総合的なパンフレットの配布をした。 ・セミナーの開催等の呼びかけを行った。 ・育児・介護休業法の改正内容および全面施行について市ホームページに掲載した。	経済団体等との一層の連携を図る。	
	②時間外勤務、フレックスタイム、在宅勤務などの配慮について事業者への啓発	企業等 雇用主 労働者	商工観光課	・経済団体等との一層の連携を図る		・総合的なパンフレットの配布をした。 ・セミナーの開催等の呼びかけを行った。	経済団体等との一層の連携を図る。	

重点課題2 育児・介護サービスの充実

施策の方向	具体的施策	施策対象者	担当課	平成25年度目標	評価	平成25年度実施内容(数値、改善点、方向性)	平成26年度目標	H26機構改革による担当課
1、育児・介護情報の提供	①情報の提供	市民 子育て中の市民 介護中の市民	こども課	「橋本市子育てガイド子育てのびのび」の掲載を継続する。	A	新「橋本市子育てガイド 子育てのびのび」を発行した。	ホームページの充実について検討する。	
			健康課	ホームページの更新を定期的に行い、広報については年3回『健康』をテーマに掲載する。		平成24年度と同じ 広報はしもと『いのち』掲載内容 H25.4Lのち3「歯から始まる健康づくり」H25.6Lのち4「生きているだけで100点満点！」H25.10Lのち5「あなたは大丈夫？メタボリックシンドローム」H26.3Lのち6「がん検診を受けましょう」	H25年度に引き続き実施する	
			いきいき長寿課(地域包括支援センター)	関連情報を再チェックし、ホームページの充実をはかる。		広報きりり、4月、7月、9月、10月、1月号において高齢者情報の発信を行った。介護予防教室等さまざまな機会において、情報の提供を行った。	関連情報を再チェックし、ホームページの充実をはかる。	
			福祉課	事務職員の人員増加により幅広く広報し、円滑に相談事業をすすめる。		事務職員の人員増加により、円滑に相談事業をすすめることができた。	引き続き円滑に相談事業をすすめる。	
2、子育て・親支援体制の充実	①保育園・こども園・幼稚園の受入体制や保育サービス(時間延長・0歳時保育等)の充実	市民 子育て中の市民	こども課	H27年度こども園整備に向けて取り組む。	B	新しく三石保育園を移設開園するとともに、年度途中で0歳児の受入れを増やすことに取り組んだ。高野口こども園では6月より延長保育を実施した。	H27こども園整備に向けて取り組む。	
			社会教育課	全幼稚園における預かり保育を継続する。		全幼稚園における預かり保育を実施した。(通常屋まで預かりであるが午後4時頃まで預かりを延長している)。	継続実施する。	
	②学童保育の内容の充実	市民 子育て中の市民	こども課	実施方法を検討する。		取組なし(保護者が運営しているため)	実施方法の検討する。	
			市民	こども課	新こども園新設に伴い、子育て支援センターの増設に向けて検討する。	・子育て支援拠点事業ひろば型としてこのほっとルームと高野口こども園、すみだこども園で事業実施した。センター型としてあやの台保育園で事業実施。	新こども園新設に伴い、子育て支援センターの増設に向けて検討する。	
	③育児、子育て・親支援の充実 地域における施設を利用した親子教室、育児講座の機会提供	市民 子育て中の市民	社会教育課	子育て中の市民	開催時間を工夫しながら、継続実施する。	地域支援者養成講座(年5回) 思春期子育てセミナー(年5回) 教育環境支援プロジェクト公開講座	思春期子育てセミナー(年間5回) 地域支援者養成講座(年間5回) 家庭教育支援チーム委嘱事業(家庭教育情報誌げんきつこfamilyの発行・講座・訪問等)	
				健康課	・積極的、継続的に啓発をする。(電話や手紙等での対応) ・教室に参加しやすいよう、年4回、ママパパ教室日曜日開催を実施する。 ・ツインバビィ<双子・三つ子を育てる親の交流会>に運営協力してくれる団体を募り、サークル開催時に毎回、母子保健推進員・ほっとシッター・家庭教育支援チームヘスティアの中から当番を決めて支援してもらう。	・乳児交流教室<第1子のみ>市内各地区公民館で実施した。対象278人中参加は延べ628人 ・ツインバビィ<双子・三つ子を育てる親の交流会> 事務局と相談しながら運営はしているが、具体的には講演会での支援12人 ・地域の親子サークルからの依頼で講師として派遣21回 ・ママパパ教室 16回延べ 妊婦63人、夫27人、その他(産婦・乳幼児)14人の参加 ・離乳食教室<前期> 6回保護者85人の参加 ・離乳食教室<後期> 6回保護者57人の参加 ・アトピー教室 2回保護者18人の参加 ・ここにこ歯磨き教室 12回保護者97人の参加 ・10か月児のフォロー教室 12回110人の参加	・昨年度は年4回、ママパパ教室日曜日開催を実施した。その日の参加は多いことから、今年度は、実施内容を見直し、回数を年4回～3回に減らし、1回目に日曜日開催を変更。その時に、2回目の案内をとり、歯科と栄養につなげる等参加者の増やす方法を工夫する予定。 ・ツインバビィ<双子・三つ子を育てる親の交流会>に運営協力してくれる団体を募り、サークル開催時に毎回、母子保健推進員・ほっとシッター・家庭教育支援チームヘスティアの中から当番を決めて支援してもらう。昨年度はこの体制で実施してきたが、参加人数が思うように増えなかった。しかし、双子・三つ子を育てるためには支援体制が必要なため、実施方法を見直し今年度も継続していく予定。	
			市民	健康課	行政関係機関との連携を充実する。	・訪問活動 妊婦訪問1件、産婦訪問231件、新生児・乳児訪問 233件<双子2組> ・8か月児健康相談 24回/年 (遊びや手づくりおもちゃを学ぶ・仲間づくり・計測等)対象児426人 参加人数317人(74.4%) ・10か月児健康相談 24回/年 対象児430人加入数411人(95.6%) ・乳幼児健康相談 実施回数34回 (フォロー児・希望者の相談) ・発達相談 年間68日 延べ189人(実171人) ・随時相談 (各地区担当の保健師が担当児のフォローを実施) (予防接種や育児について電話や窓口で相談実施)	・出生数は減少しているが、訪問や相談等の件数は決して減少していない。より丁寧な対応が市民からは求められており、今年度も、子育てに対する不安の軽減につながるよう支援に努めていきたい。 ・昨年度同様に関係機関との連携により対応していく予定。	
				子育て中の市民	健康課			
	④子育て相談の充実	市民 子育て中の市民	健康課					

施策の方向	具体的施策	施策対象者	担当課	平成25年度目標	評価	平成25年度実施内容(数値、改善点、方向性)	平成26年度目標	H26機構改革による担当課
2、子育て・親支援体制の充実	⑤乳幼児検診の充実	市民 子育て中の市民	健康課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年と同様に健診未受診者に対しては健診の案内を未受診確認後2回まで送付する。</li> <li>・4月からは、どの健診も受付時間を2部制にし、待ち時間の短縮・集団指導を入れる等工夫する。</li> <li>・4～5か月児健診には、社会教育課と連携し、乳幼児期から内読を勧めるために空き時間を利用して読み聞かせを実施する。</li> <li>・1歳8か月児健診時にう蝕活動性試験を導入し、早期からのむし歯予防に努める。</li> <li>・歯科衛生士を週3日であるが雇用し、県下でもむし歯率の高い本市の歯科に対する意識づけを行う。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・4～5か月児健診 97.9%</li> <li>・1歳8か月児健診 94.5%</li> <li>・3歳8か月児健診 93.2% と健診受診率は高い。</li> <li>・股関節検診 受診者383人</li> <li>※少しでも受診しやすいように、受付時間を2部制にし、集団指導を導入、待ち時間を少なくする工夫をした。また、4～5か月児健診の待ち時間を利用して、受診の親子全員に対して絵本の読み聞かせを導入、1歳8か月児健診にう蝕活動性試験を導入し、その後のフォローとして2歳で「歯ぐきキラキラ教室」を実施した。対象児82人15回参加児28人</li> <li>※歯科衛生士を週3日であるが雇用し、歯科医師や歯科衛生士の取りまとめおよび事業内容の充実、小・中学校における健康教育等むし歯率の高い本市の歯科に対する意識づけを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年と同様に健診未受診者に対しては健診の案内を未受診確認後2回まで送付する。その後は担当から連絡という形をとる。それでも把握できない時には、保育園や幼稚園・こども園等の連絡会実施時に挙げ、状況把握に努める。</li> <li>・歯科に対する取り組みを充実させ、乳幼児早期からの予防に努める。</li> </ul>	
	⑥産婦人科・小児科・救急医療の充実	市民 子育て中の市民	市民病院	<p>医師の確保については、和歌山県とも連携を図り、また橋本市市民病院独自の施策を打ち出し、引き続き確保に努める。HCU(ハイケアユニット)の施設を整備する。</p> <p>※HCU(ハイケアユニット)とは、高度で緊急を要する医療を行うための病室。</p>		HCU(ハイケアユニット)施設について、平成26年4月からのスタートに向けて予定通りに整備が完了してきた。救急科の医師についても和医大より1名派遣されることになり、救急の受入体制の充実が図れることになった。	小児科医の充実	
	⑦多世代の遊びと交流の場の確保	市民	住宅・公園課	園内のバリアフリー化工事 5公園良好な維持管理及び点検等を行う。		園内バリアフリー化50% (9/18公園)	引き続き園内のバリアフリー化工事の実施及び老朽遊具の改修	都市整備課
			社会教育課	周知活動を通じてボランティア登録も同時に呼びかけひろげていく。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後子ども教室で地域の大人と交流しながらの子どもの居場所づくり</li> <li>・学校支援地域本部事業で地域人材を学校で活用し、地域のつながりづくり</li> <li>・児童館での親子の居場所づくり、手作りを通しての保護者のつながりづくり</li> <li>・家庭教育支援チームヘスティアによるシニアカレッジへの協力</li> </ul>	放課後子ども教室推進事業・学校支援地域本部事業実施、児童館における親子の居場所づくり、保護者のつながりづくり、家庭教育支援チーム委嘱事業実施及びこれらの事業の広報、周知活動を通じてボランティア登録も同時に呼びかけひろげていく。	
			中央公民館	市民活動事業や子育て支援事業との連携を図り、地域の活性化につなげていく。		8地区公民館の子育てサークルのリーダー達が子育ての悩みの語り合いや情報交換、子育てサークルのリーダーとしてのスキルアップのための学習をした。	市民活動事業や子育て支援事業との連携を図り、地域の活性化につなげていく。	
			紀見地区公民館	年齢問わず大勢の参加があるナチュラルブレイクでは、お祭り化だけではなく、そもそもの原点の趣旨(ふる里、自然環境)を考え、そのための企画を具体化する。	B	多世代の学びと交流のために地域の方々講師となり『子育て講座(全5回、226名)』『こどもルーム(全6回、127名)』を開催。また、3世代間交流と題して、『アンサンブルコンサート(30名)』。地域の特性を生かした事業である『みどりのさくらまつり(300名)』『観月会(100名)』『ふる里いよこ探しナチュラルブレイク(1200名)』を開催した。	地域の大人が、子どもたちのために何が出来るかを考え合い多世代が共に育つ機会を提供する。	
			紀見北地区公民館	子どもから高齢者までの交流の場として「夏まつり」等実施する。		子どもから高齢者まで参加できる事業として、恒例の「夏まつり」を7月に開催。二千人を超える参加があり、地域の年1回まつりとして定着。また11月には「紀伊見峠ふるさと展望」を開催。かごを担いだり衣装をしたりして、紀伊見峠の頂上を目指す。25年度は千人近い参加者があり地域住民のみならず、遠方から来場してくれる人もいた。	継続して実施。カラオケ大会を開催する。(子ども～大人まで)	
			恋野地区公民館	地域の特色を生かし、幅広く広報し事業の発展に向けて継続実施していく。		年2回の三世代交流(174名)高齢者と小学生、保育園児そして運営委員やボランティアによる踊りもあふれる事業、盆踊り大会(700名)、文化祭(234名)、ふれあいのど自慢(65名)等開催。人権講演会は、必ず小学生やその父兄も参加ある。	継続実施で事業を広く広報する。	
			学文路地区公民館	地域共育コミュニティとの関わりを推進する。指導的役割を担えるボランティアの発掘(運営委員も含む)と人材育成により、事業への参画を促す。新しいことを考え、事業の継続と拡幅により、新規の参画を計る。広報の充実。		わんぱくKID'SわんぱくBABYなどの子育て支援や、地域ふれあいルームを軸とした子どもの居場所づくりを行い、地域の方にもお手伝いいただいた。	学校、共育コミュニティ本部との連携強化を継続、地域人材(講師・ボランティア)の発掘、多世代参加の事業を強化する。	
			隅田地区公民館	地域と協力し、創意工夫をしながら継続して実施する。		世代を問わず参加できる『盆踊り大会』(約800名)を開催。地域のこども園、高校生が踊りや模擬店の出店で参加。こども園と地域の高齢者の集いを目的とした『三世代交流会』(男性4名・女性51名・園児43名・3歳～80歳台)で、高齢者の楽しみの場を提供するとともに世代間の交流を図った。地域の中学生や高校生のボランティア活動推進のため『こんにちは☆えほん・2回実施』(男性15名・女性55名・中高生10名・子ども40名・0歳～50歳台)の読み聞かせ等に、絵本の読み聞かせサークルのメンバーと共にスタッフとして参加した。	地域と協力し、創意工夫をしながら継続して実施。	
橋本地区公民館			世代間交流事業、乳幼児親子学級間の交流の場を企画する。		公民館や地域で活動している方々の活躍の場の提供と、子どもとの交流を持つ事を目的として「子どもサマースクール」(全7回、136名)、「子ども将棋教室」(全12回、135名)「親子クッキング」(全3回、42名)を実施。ブロック活動として、地域での盆踊り、グラウンドゴルフ、ハイキング等を実施。男女、年齢を問わず多数の参画がある。	平成25年度同様に実施予定。		
西部地区公民館	地域住民の交流が深まる「ふれあって！せいぶ」を継続実施する。		「ふれあって！せいぶ」は19回目を迎え、多世代の交流の場となっている。	継続実施する。				
高野口地区公民館	多世代交流の場はあるが、参加年齢に偏りがあるため、幅広く参加できるよう事業展開する。		子育てサークル「ふれんず」を本館主催で毎週第2・第4金曜日に実施、「盆踊り大会」「文化祭」などを開催した。	子どもからお年寄りまで楽しめる「盆踊り大会」や「文化祭」などを企画する。				

施策の方向	具体的施策	施策対象者	担当課	平成25年度目標	評価	平成25年度実施内容(数値、改善点、方向性)	平成26年度目標	H26機構改革による担当課
3、介護支援体制の充実	①介護保険制度の充実	市民	介護保険課	広く市民に対し、アピールしていきたいが、今年度は現状どおり依頼があれば、介護保険制度出前講座を実施する。	A	依頼のあった公民館等への出前講座等を実施した。	来年度に制度改正が控えており、夏以降に順次詳細が明らかになるため、出前講座等による周知を行っていく。	
	②障がい者自立支援制度の充実	市民	福祉課	・施設建設等運営状況を考慮に入れながら協議していく。 ・就労継続支援A型、生活介護施設、グループホームが新設される		就労継続支援A型、生活介護施設、グループホームが新設された。	施設建設等運営状況を考慮に入れながら協議していく。	
	③介護に対する意識改革の推進	市民	いきいき長寿課(地域包括支援センター)	ホームページ等を充実する。		介護予防事業として、高齢者グループの支援を行った。げんきらりー教室(筋力向上トレーニング自主運営教室、ふれあいサロン事業)への継続的な関わりを行い、介護予防や介護についての相談窓口の啓発を行った。	人権問題として虐待やDV、男女共同参画について啓発できるように努める。	
	④ノーマライゼーション「優しいまちづくり」の促進	市民	いきいき長寿課(地域包括支援センター)	関連情報を再チェックし、ホームページの充実をはかる。		認知症サポーター養成講座を小学生、民間企業、老人クラブ等対象に開催し、505名の参加があった。それぞれの立場で、地域を見守るために何ができるのかということを中心に啓発を行った。広報において認知症サポーター養成講座についての特集を組んだが取り組みについての問い合わせについても増加している。	継続実施する。	
福祉課			・弱者に対するサービス低下がないようよびかけを行う。 ・本庁への磁気ループ補聴システムを設置する。	本庁への磁気ループ補聴システムを設置した。	弱者に対するサービス低下がないようよびかけを行う関係各課と連携して対応する。			